

かきて、兵衛の君の御もとにとてあれば、れいのあて宮に御覽せさすれば略下

〔源氏物語三十一真木柱〕御火とりめして、いよくたきまめさせたてまつり給

〔紫式部日記〕そのよさり〇寛弘五年九月九日御まへにまいりたれば、月おかしきほどにて〇中少將の

君大納言のきみなどさぶらひ給ふ、御ひとりにひとひのたきものとうで、こゝろみさせ給ふ、

〔榮花物語十一荻花〕一條院殿のあまうへ〇藤原道長妻倫子母大宮の宮たちみたてまつりしに、わがいのちは

こよなうのびにたり、いまは中宮〇三條后妍子道長女のひめみやをだに見奉らではとなんの給はすれ

ばとて、との、うへのおまへ〇倫さるべきひまをおぼしめしければ、かうくこのみやなんこ

の頃こゝに出させ給へる、よきおり也、おて奉らんと、一條殿に聞えさせたまへれば、いとうれし

き事なりとて、俄に御まうけしいそがせ給〇中尼うへいみじう去つらひてわれもいみじく心

けそうせさせ給ひて、まちきこえさせ給程にわたらせ給へり〇中御をくり物に、このとしごろ

たれにもえらせ給はでもたせ給へりける、かうごのはこひとよろひに、いにしへのえもいはぬ

かうどももの、いまは名をだにも聞えぬや、そのおりのたき物などのいみじきとものかすをつく

させ給へり

〔榮花物語十九御裳著〕御ぐしあげの内侍のすけの、こよひのつばねえもいはず、やがてしつらはせ給

へり、物どもたまはせ〇中にかひすゝりのはこひとりたゝみまでのこるなう給はる、

〔袋草紙三堀川院〕中宮御方ニ令渡給ヒテ、以藏人永實御所ニアル薰物ノ火桶申テ參レト有仰

ニ、參テ申出ニ、周防内侍繪書タル小キ火桶ヲサシイヅトテ、

カスミコメタルキリヒヲケカナ

永實無程取之

ハナヤサキモミチヤスラムオボツカナ、範永之孫清家子ニテ、新藏人ナルヲ心ニク、思テ、フ